



2017-2018年度 主題

国際会長 : Henry Grindheim “Let us walk in the Light-together
「ともに、光の中を歩もう」
アジア会長 : Tung Ming Hsiao “Respect Y's Movement”
「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事 : 栗本 治郎 「広げよう ワイズの仲間」
湘南・沖縄部長 : 金子 功 「Y'sの絆を強め、広げよう」
クラブ会長 : 今城 宏子 「笑顔で奉仕、奉仕で笑顔」
～仲良く、楽しく、無理をせず～



今月の聖句

あなたたちの中で罪を犯したことの
ない者が、まず、この女に石を
投げなさい。

ヨハネによる福音書8:7

(信徒の友”みことばにきく”より)

2017年10月本例会

◇移動例会

小田原城と箱根、東山荘へ

日時 10月27日 9:00

集合場所: センター南駅バス停

※9:30 市が尾駅

バス車内プログラム 鈴木S

10:30 小田原城到着・散策

11:30 出発(国道1号線経由)

11:45 「かまぼこの里」着

昼食・見学

12:45 出発

13:40 箱根町着 海賊船乗船

14:20 桃源台下船

15:00 桃源台発

15:30 東山荘着

フィッシャー館にて堀田

所長の卓話・見学

17:00 同所レストランにて夕食

18:30 東山荘発

19:30 市が尾駅着

19:45 センター南駅着



箱根芦ノ湖の海賊船

巻頭メッセージ

岡崎 さよ子

“ジェロントロジー”

最近ジェロントロジーという言葉をよく耳にします。
ギリシャ語で老人を意味する“Geronto”に、学
問を示す“ology”が接尾している言葉です。ジェロント
ロジーが生まれたのは今から100年以上も前のフランス
で、その後アメリカで発達してきたそうです。



「老害」がもたらす諸問題を、医学、心理学、生理学などの自然科学だ
けでなく、経済学、法学などの社会科学的側面からも捉え、高齢期の豊
かな生き方を研究する学問を「ジェロントロジー」というそうです。

日本は世界一の長寿国であり、高齢化の課題先進国です。今、急
速な高齢化が進み、従来の人口構造を前提とした社会の仕組
みが破綻し始めています。日本は技術の進歩で長寿社会を実現しまし
たが、これからは、長寿の質、高齢期の生活の質を如何に向上させるか
を真剣に考えなければなりません。ここで大切なのが学問だそうです。
この学問を研究者だけでなく、高齢者自身、あるいは、何れ高齢者とな
る若い人たちにも学んでもらうことが日本社会の活力を維持するために
不可欠と考えた山野正義氏は一昨年、USC(南カリフォルニア大)と共
同で「グローバル ジェロントロジー センター」を開設したそうです。

ジェロントロジーに関する60の講座を、何時、何処でも受講できる「スカ
イキャンパス」というオンライン学習システムを提供しているそうです。

ジェロントロジーは、日本語では「加齢学」や「老年学」と名付けら
れています。

幾つになっても学ぶ気持ちを忘れずに、生きるほど美しく輝く人生を
歩んでいきたいものです。(完)

《前月のデータ》

例会出席	12名	在籍会員数	17名	各種記録	前月	累計	
メンバー	10名	月間出席数	12名	使用済切手	0g	0g	
ビジター	1名	メーキャップ	3名	プルタブ	0.6kg	0.6kg	
ゲスト	1名	月間出席率	88%	スマイル	12,500円	55,587円	

2017-2018年度(第21回) 湘南・沖縄部会

日時 2017年9月16日(土)

場所 ワークピア横浜

《第1部》

松島湘南・沖縄部書記(横浜C)の司式で開会礼拝を執り行う。青木担当主事により聖書ローマの信徒への手紙5.3-4が朗読され祈祷・献金が行われた。なお、献金は「九州北部豪雨緊急支援募金」に出捐される。

《第2部》 部会

金子功湘南・沖縄部長(横浜C)による開会点鐘に引き続き、参加者一同でワイズソング・ワイズの信条が唱和された。出席者紹介の後金子部長の挨拶、横浜YMCA田口努総主事(横浜C)より挨拶があった。

《第3部》 記念講演

早稲田大学名誉教授 木村利人氏による「戦争・平和・いのちを考える」と題する講演が行われた。

氏は、日本で最初のバイオエシックス講座を開設された方として著名であるが、あの誰でも知っている歌「幸せなら手をたたこう」の作詞者であることはあまり知られていない。



1934年生まれの先生にとり、太平洋戦争が始まった1941年は小学校1年、真珠湾奇襲攻撃の大勝利に喝采を叫んだとのことでした。敗戦後、中学生となった先生は、人との出会いから

キリスト教に接し、16歳の時に信仰告白して受洗されました。その際に先輩がくれた聖書に書かれた「新しい天と新しい地を見た」(ヨハネ黙示録21.1)に感動され、今に至っておられるとのこと。早稲田奉仕園の沖縄ワークキャンプで知り合った沖縄の学生たちから聞く悲惨な戦争体験、フィリピンYMCAのワークキャンプに参加して知った、戦時中の日本軍の蛮行など、これまでの「被害者」が、実は「加害者」であったということに認識するに至った。フィリピンで出会った若者から、これまで日本人を憎んでいたが、君自身が戦争に参加していたわけではなく、これから僕たちで戦争のない世界を築いていこう、「タヨ

アイマカイビガン カイクリスト」(タガログ語/僕たちはキリストによる兄弟だ)と語りかけられ、キリストの愛によるこの和解を体験したことは大きな喜びだった。

そんな時、キャンプサイトに遊びに来る近くの子どもたちが歌う民謡に歌詞をつけたのが「幸せなら手をたたこう」の誕生であった。折しも、キャンプの仲間とともに読んだ聖書の箇所が「すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ」(詩篇47.2)であった。

その後滞在したベトナムで、ベトナム戦争中に米軍が使用した枯葉剤(Agent Orange)が人々の遺伝子に致命的な損傷を与えている現実と接し、先端技術の軍事利用・悪用を押しとどめることを願い、いのちの尊厳と人権を守る「新しい命の価値判断をめぐる学問分野」を構想し、それが1970年代に「バイオエシックス(生命倫理)」として展開されることになる。その後、様々な場所における、この分野のパイオニアとして成果を上げて行かれます。このような活動の源にあるのは先生の信仰と人を愛する心であることがよく分かる講演でした。最後に先生は

①知ること ②愛すること ③輪を作り ④世界を見よう 「しあわせ」で講演を結ばれた。

《第4部》 懇親会

司会の小松さん(厚木C)の奏でるファンファーレで開幕。押川牧師(横浜C)の感謝祈祷、乾杯の音頭は。宮内次期理事に代わる長老の加藤さん(とつかC)で始めました。部の各クラブメンバーの他、栗本理事率いる区役員各位、YMCA総主事並びに担当主事各位、ビジター・ゲストなど、合計60数名が参加した会は、皆で歌ったり、各クラブ、次期区大会ホストのアピール等があったりで、最後は、最も遠くから参加した屋良さん(那覇C)の閉会点鐘で幕を閉じました。以上



特別報告

つづきクラブでは、地域でのCS活動に力を注いでおり、クラブ設立時より、地元の社会福祉協議会（社協）との密接な関係を保ってきました。私たちが、社協がの様々な活動に積極的に参加する一方、クラブ独自のプログラムに、社協の支援金を配賦してもらうなど、相互補完関係を維持しています。今回、社協の交流会にクラブメンバーの横田・岡崎両ワイズが出席し、報告を寄せてくれました。（編集子）

平成29年度

第1回 ボランティア交流会 報告

表題の交流会が9月20日（水）に「かけはし都筑」の多目的室で開催された。

クラブからはクラブ代表の岡崎さんと災害ボランティアの代表として横田が参加した。

都筑区社会福祉協議会の市民活動分科会の代表の佐藤さんに続き社協の事務局長の八木氏の挨拶があった。

お互い地域の市民活動における共通の意識をもって、それぞれのボランティア活動に連携できるようにとの交流会の意義を話された。

次に「楽しく学ぼう！五感を使ったレクリエーション」と題して、五感教育研究所室長の高橋良寿氏の卓話と体験が始まった。

指の運動を色々な形で音楽や歌にあわせて行なう事で、健康特に脳の健康と 認知症予防などの目

的とお互いの輪の交流を深める目的で体験をした。

歌などにあわせて簡単な手話の勉強もしました。諸々の趣向にあわせて楽しく和気藹々のうちに時間が過ぎました。

機会があれば今後のCS活動などにも活用できると思った。

また、クラブの9月例会での厚木クラブの佐藤さんの卓話も同様な事かと思ひ復習の意味を込めて期待を込め体験したいと思っています。

交流会の後、分科会があり前回の議事録の承認と今後の予定などが打ち合わされ、秋の恒例の赤い羽根募金の街頭参加や年末助け合い募金、つづき防災セミナー、「広がれ、子ども食堂の輪」などのスケジュールについて意見が交わされた。

（横田孝久 記）

《YMCA報告》北YMCA館長 山中 奈子

2017年9月19日から75日間、御殿場・YMCA 東山荘と東京・在日韓国YMCAにおいて全国のYMCAから集まった10名のStep研修を受講しています。毎日様々な講師の皆さまにお越しいただき、学びを深めています。先日は青山学院大学名誉教授の関田寛雄先生がお越しくださり、キリスト教の概説をお話しいただきました。YMCAが大切にしているBody Mind Spirits の中で、中でもBodyの大切さを説かれました。からだに障がいのある画



家 星野富広さんの生き様をお話しいただき、「MindもSpiritも大切だけれども一番大切なのはBody。これがなければ言葉を強めることも伝えることもできない。そんなさみしいことはない」と言われました。日頃当たり前と思っている健康を何よりも大切にすることが、神様に近づく一番の方法だそうです。また、「男はつらいよ」の寅次郎が大好きで、全ての映画を観ていらっしやること、寅さんは日本のイエスキリストだ…と話しておられました。人のために生きる寅次郎…たしかにそうだな…と思わず微笑んでしまいました。

今日突然、東山荘に今城ご夫妻、横田さん、岡崎さんが移動例会の下見にお越しになりました。久々のワイズの皆さんの顔をみてほっとしてしまいました。自分でも気が付かないうちにホームシックになっているのかな…と感じました。（写真を撮るのを忘れてしまいました。残念）イベントの多い季節、体調を壊さないようお気を付けてください。次回も「Step研修報告」をさせていただきます。



《特別報告》 第7回 You・&・I コンサート開催報告

東日本を大震災が襲った2011年夏に初回を開催したYou & I コンサートも今回で第7回を迎え、第1回と同じ横浜市都筑区都筑公会堂で開催されました。

当時、クラブの創立5年の記念となるようなプログラムを模索していた私たちが、ヒントにしたのが、大和YMCAが行っていた「和輪Wa」コンサートで、運営の術を学ぶと同時に、そこに出演しておられた佐藤大祐代表率いる「横浜室内合奏団」(横室)を紹介して頂きました。

以来7年間、横室と共に毎年秋に開催してきたコンサートは、次第に地元の人たちにも認識されるよ

うになり、楽しみに開催を待っていただくようになりました。

今回は、演奏者、ボランティアも合わせると約400人が参加し、数々の名曲演奏と爆笑「オペラ」に会場が沸きに沸く、素晴らしい約2時間を皆で共有することができました。

今回は、当クラブメンバーの他、共催者のNPO法人関係者に加え、近隣のYMCAからも多くのスタッフが駆け付けてくれ、裏方で大いに頑張ってくださいました。本当に感謝です。

当日の様様を、フォトストーリーでご報告します。(一部次頁にも)



朝十一時半、準備のほとんどを終え、ボランティアの開会式後の全体写真(左)と、準備整い来場者を待つばかりの受付風景(右)



昼食時のミニ交流会。運営委員会の「みんなの家」(左)とアーモンドコミュニティネットワーク(右)



左下は、幕開けの曲 ヘンデルの「サラバンドとバッサカリア」。右下は、大好評の爆笑創作オペラ「アルプスの花咲か婆さん」





演奏終了後、演奏者たちへのプレゼントを配ってくれた「すぷーん」の大塚君、どうもありがとう。



最後は、ボランティアも登壇し、会場の皆さんと共に「花は咲く」と「見上げてごらん夜の星を」を熱唱。



1年間かけて準備してきた今年のYou & I コンサートも、無事に成功裏に閉幕しました。過去の記録を上回る入場者を得ることができ、ご協力いただいた全ての方々に感謝の気持ちを送ります。特に、会場で、東日本と熊本の震災地支援募金で活躍してくれた、横浜北YMCAのキッズたち（写真左）には特大の感謝を。

早速、会場確保など、来年の準備が始まります。今後ともよろしく。

「日本YMCAの新たなブランド」

日本のYMCAには130年を超える歴史があります。その成果と価値を新たな未来へとつないでいくために、YMCAはいま、新たなブランドコンセプトをまとめ、そのコンセプトを表現するブランドロゴが誕生しました。日本のYMCAが更なるステージへ向かって変化し、社会に必要とされる働きを推進することを目指していきます。

ブランドプロジェクトの一環で行われた全国1万人以上の方が参加したオンライン調査のアンケートでは、YMCAのことは「よく知らない」「イメージがわからない」といった結果となりました。活動内容をより分かりやすく伝えるため、また全国のYMCAで同じイメージを持つだけを目指します。

ブランドコンセプトにある「互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る」ことをビジョンとしてYMCAが実現したい世の中の姿を掲げました。ポジティブネットとは、互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち日本のYMCAはグローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ることを進めていきます。

《ブランドロゴ 説明》

愛称 ポジティブY

新しいブランドロゴは、鳥が飛び立とうとする瞬間の姿をモチーフにしたシンボルで、「ポジティブY」と呼びま

す。一人ひとりの生命の息吹、未来へ向かう前向きな力、平和への想いを表現しています。

◇鳥が飛び立つ姿を、アルファベットのYが想起される形に重ね合わせています。

◇「みつかる。つながる。よくなる。」という3つのバリューと、正章にあるSpirit Mind Bodyを表す逆三角形をオリーブの葉をくわえた鳥のようにくわえて平和を願い飛び立とうとしています。新たにYMCAが提供を約束する価値と、変わることのないYMCAの精神の両方が込められています。

◇柔らかな曲線と鮮やかなレッドによって、生命の息づかい(生命感)と、YMCAがめざす希望ある豊かな社会が実現される印象を感じさせます。

(新しいロゴマーク)



(山添 訓/つづきクラブ 記)

《参加報告》

第2回ワイズメンスカップキッズ室内サッカー大会

9月16日(土)、横浜ワイズメンズクラブとつづきワイズメン&ウィメンズクラブのスポンサーシップのもと、第2回目のキッズサッカー大会が開催された。横浜クラブの船田会長、当クラブ今城宏子会長他、両クラブメンバー8名が参加しました。9:35より開会式が行われ、大会実行委員長の山中北Y会長より、こども達やご父兄に対して、スポンサーであるワイズメンズクラブについてのお話があり、次いで、今城会長より、こどもにもよく分かるお話と「頑張ろう!」の励ましの挨拶がありました。



キックオフに際し、保護者の方々に向け、試合の勝敗に関係なく、こどもたちのプレーを温かい目で見守ってほしいこと、判定への異議や相手チームへの批判などしないことなどの注意がありました。

今回の参加チームは、中央Yから2チーム、北Yから2チームと若干寂しいものではありましたが、

4チーム(15名)総当たり戦で12試合が繰り広げられました。子どもたちが小さすぎて、チームごとに色分けされたビブスを引きずって走り回る姿はとても印象的でした。紅一点の女子選手の目覚ましい活躍、2-3才のちびっこが自陣ゴールに突進する姿などには盛んな拍手が送られました。表彰式では、成績に関係なく、ワイズたちが選んだキャラクターディベロップメント各賞(Caring賞、Honesty賞、Responsibility賞、Respect賞)がそれぞれのチームに、横浜ワイズの船田会長より金メダルを添えて授与されました。最後は、船田会長の激励の言葉で幕を閉じましたが、我々も楽しみ元気を頂いた1日でした。(つづきクラブ出席者：今城H会長、岡田K、横田、久保、今城Tの5名)



(久保勝昭 記)

横浜YMCA会員スポーツ大会参加報告

“YMCAに集うすべての会員の方が、体を動かし汗を流し、笑顔を交わす楽しい大会です。多くの皆さんの笑顔に出会えることを楽しみにしています。”の趣旨のもとに、9月23日(土・祝)フェリス女学院大学緑園キャンパス体育館で第7回会員スポーツ大会が行われました。

種目はビーチバレー(ビーチボールを使ったバレーボールのような競技)で、各YMCAからの子どもたちや保育園児、卒園児、高等学院生徒など25チームが集まり、つづきクラブからは鈴木S、岡田Kワイズが参加しました。

試合の詳細はYMCA Newsをご覧ください。

ビーチボールのバレーは面白いです。また応援も趣向を凝らした衣装を着けたり、被ったり笑いもいっぱいでした。YMCA会員スポーツ大会実行委員会の趣旨の通り多くの笑顔に出会えました。“みつかる。つながる。よくなっていく。”といわれますが、このような大会を実施するなかに

YMCAの宝(ブランド)を感じました。これからはこの点を意識してYMCAの活動に少しでも参加したいと思いました。

(岡田勝美 記)



《例会報告》

10月度事務例会報告

今城宏子

日時：10月10日(火)18：00～19：45

@ 田園都筑教会

出席：今城T・H、岡田K・M、岡崎、福島
胡麻尻、鈴木K・S、辻Ts、横田

<開会・黙祷>

<協議・確認事項>

1. 第7回YOU&Iコンサート 振り返り

◆ 今城T実行委員長から昨年を上回る観客数を
得て成功裡に終わったとの報告。◆ 当クラブメンバーをはじめ運営委員の皆様
のご協力、また横浜YMCAの職員の方々の
参加により会場準備から片付けまで円滑に運
んだことは感謝。◆ 横田会計からチケット・募金について報告
を受けた。予算とおりのチケット収入があっ
たこと、募金は例年を上回る64,946円が集
まった。北Yの子供たちの協力に感謝！◆ 今後、アンケートの集計を行った後、後援
先等への報告を行う。

◆ 次年度も是非開催したいことを確認した。

2. 10月活動予定

・ 14日(土) 横浜YMCAチャリラン
(担当：受付 8：30集合)

・ 15日(日) 福祉農園：岡田K・M参加

・ 19日(木) 山元町「みやま荘」「つばめ
の杜保育所」訪問 辻Ts、今城T・H

・ 21日(土) 部役員会 北Yバザー委員会

・ 23日(月) 部エクステンション委員会

・ 27日(金) 秋の移動例会：箱根・東山荘
訪問。3. 10月行事予定、担当の確認を行った。
歌声広場、社協災害ボランティア、社協ボ
ランティア交流会、調理ボランティア、
送迎ボランティア、みんなの家、
TKBカード作り、等々

4. 11月予定

・ 3日(金) 北YMCAバザー

・ 14日(火)事務例会、18日(土)部評議会、

・ 23日(木)中央YMCAウエルカムフェスタ

・ 24日(金) 本例会(卓話：高松満至氏)

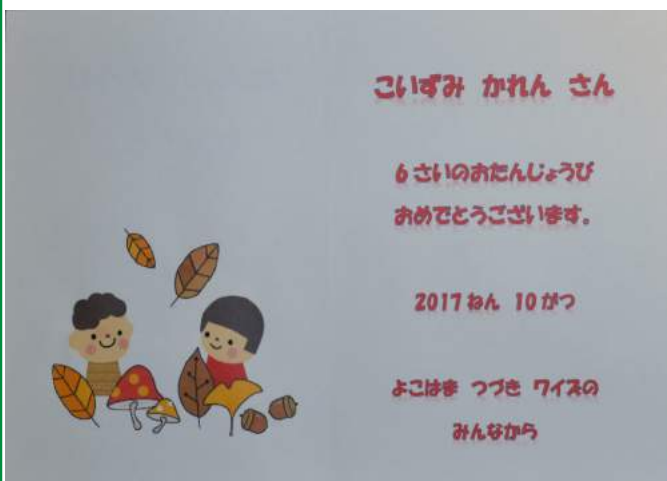
<報告事項>

9月16日(土) Y's杯チャリティーサッ
カー(岡田K)9月23日(土・祝) 横浜YMCA 会員ス
ポーツ大会(鈴木S)

<特別報告>

湘南・沖縄部EMC委員辻Tsより、ワイズを取
り巻く厳しい状況打破のため、区理事の要請
によりエクステンション委員会が設立され、
委員会が開かれた件で報告があった。
今後とも、継続的に活動を行うとのこと。<閉会・黙祷> お弁当を頂きながら懇親の時
を持った。

TKBお仕事会

女性メンバー毎月恒例のTKB(Tsuzuki no Kawaii Bachans)お仕事会が開かれ、東日本大
震災の被災地、福島県南相馬市原町、宮城県亘理郡山元町の保育園と老人施設に送るお誕生
カード作りに精を出しました。保育園のこども達は、全員震災後に生まれた子たちとは言いながら、何かと制限のある
中ででの生活を余儀なくさ
れています。お年寄り
は、津波でお仲間や施設
の職員さんをなくされた
方もおられます。そんな
方々の、細やかなお慰め
になればと思い、手作り
カードの制作にいそしん
でいます。

久保勝昭ワイズの今昔物語

辻 剛

久保さんは現在でも北YMCAの運営委員長を始め、「歌声広場」を3つも掛け持ちしているなど、大活躍されています。しかし、30年前も同じように活躍されていたことがヒョンなことからわかりました。最近、「日本ワイズメン運動史Ⅱ 1980-1988」に目を通していたところ、30年前の横浜ノースクラブの活動報告を久保さんが執筆されているのを見つけ、投稿することにしました。写真は、2009年9月15日に菊名の「敦煌」で撮ったものです。私が、湘南・沖縄部長として横浜ノースクラブの解散を阻止すべく、当クラブの鈴木茂さん、横田孝久さんらとともに説得に通っていたところです。久保さん、今後ますますつづきクラブで活躍され、クラブの創立30年記念誌に活動報告を書いて下さい！



身障者へのチャリティーパーティー

横浜ノースクラブ

1977年2月18日ノースワイズメンズクラブ国際協会にて認証。同、5月1日、飛鳥田横浜市長を迎え、全国より200名のYMCA関係者が参加し、ここに横浜ノースクラブが誕生することになるのですが、一年前の1976年6月10日、第1回設立準備委員会が開かれた後、その年の12月19日には参加者350名を集めてクリスマスチャリティーパーティーを開催し、その時の利益を身体障害者「ひまわりの会」に、また、国際協力募金へ寄付をしたことは、ノースクラブの奉仕クラブとしての基本的活動方針が既にできていたような気がします。

以来、このチャリティーパーティーはノース活動のイベントとして定着し、1987年には10回目を開催することができ、その成果は確実に生かされてきていると思います。それは、「共に歩む委員会」に対する資金援助であり、国際協力募金への献金であり、と同時にクラブの活動資金の一部となっているのです。1981年国際障害者年初年度に北YMCAで開催されたバザーの収益を基金として「障害者と共に歩むプログラム委員会」として市川宝ワイズを委員長に、北Y職員、地域の人々、ノースのメンバー、リーダー等の人たちでこの会を構成し、第1回のプログラムを鎌倉源氏山ハイ

キングに行った事に始まり、ワイワイ運動会、雪上キャンプ、地引網、バザー等、数々のプログラムを年間計画の中に取り入れ実施して来ました。

1987年7月12日「ワイワイ憲章」が制定され、会の名称も「横浜YMCA・共に歩む委員会」と改め現在も活発に活動しています。ノースの10年間の歩みも「共に歩む委員会」との10年といっても過言ではないでしょう。1987年は10周年ということで記念行事を計画し実施して来ましたが、数々の行事の中にあって10周年記念誌を発行することができたことは特筆すべきことと思います。

そして1986年にメネット会が正式に認められ11年目に入ったノースのプログラムもファミリー色の濃いものになりつつあるように思います。又10年間の歩みを考えるときに忘れることの出来ないのが横浜北YMCAの存在です。ノースのプログラムには常に関わりを持ち、地域の人々との交流のパイプ役となり、又若いリーダーは、ボランティア精神を発揮し常にノースの協力者としてこの10年間を支えてくれたことに心より感謝したいと思います。ノースクラブも奉仕クラブとしての目的達成のために解決しなければならない問題がありますが、その一つ一つを解決しながら地域の人々から愛されるクラブ作りを北YMCAと共に歩んでいきたいと思っています。(久保勝昭)



△何かと忙しかった日々の締めくくりのYou & Iコンサートも無事に終わり、更に、恒例のYMCAチャリティーランも終わって、ほっと一息ついて気が付いたら秋が深まった。朝夕が寒い。△秋には、今回で三回目となる我がクラブの移動例会。会員以外の友人も誘っての日帰りのバス旅行で、車内では、ワイズを学ぶ時間も準備されている。今回は、近場ではあるが、小田原から箱根に回り、最後は御殿場に東山荘を訪ね、新装なった施設の見学、所長による東山荘のあれこれを伺い、評判高いレストランでの夕食を頂いて、路に就く一日。▽紙面の都合で今回のブリテンには掲載できなかったが、先週末、20回目の横浜YMCAインナーナショナルチャリティーランが開かれ、当クラブから9名が参加して、担当の受付とお弁当配りを行った。参加した辻さんが、左の写真に写ってない理由などが、次号で明かされる予定。(編集子)

《編集後記》